

わが国の医療・介護制度の特徴と改革の視点

平成28年10月4日 財政審 分科会 資料わもとに作成

わが国の医療・介護制度の特徴

国民皆保険

フリーアクセス

自由開業制

出来高払い

患者側

- 低い患者負担でコストが明確に認識できないまま、フリーアクセスゆえに医療機関にかかりやすい仕組み

医療機関側

- できるだけ患者を受け入れて診療行為をすればするほど収入を確保することが可能
- 患者と医療機関側との情報の非対称性も加わって、過剰なサービス供給が行われやすい

医療・介護費の増大を招きやすい構造

国民皆保険を維持しつつ、制度を持続可能なものとしていくための医療・介護制度改革の視点

高齢化の進展を踏まえた医療・介護提供体制の確保

- 高齢化による疾病構造の変化等を踏まえた効率的な医療提供体制、地域包括ケアシステムの構築(緩やかなアクセス制限を含む)

大きなリスクは共助 小さなリスクは自助

- 個人で対応できない大きなリスクには共助でカバーする一方、小さなリスクは自助で対応することとし、給付を重点化

年齢ではなく負担能力に応じた公平な負担

- 年齢により異なる負担とするのではなく、資産の保有状況等も含めた負担能力に応じた負担とし、全世代で支え合う仕組みを構築

公定価格の適正化・包括化等を通じた効率的な医療・介護

- 診療報酬・介護報酬の適正化や包括的かつ簡素な仕組みへの見直し、薬価制度改革等を通じ、効率的な医療・介護サービスを提供

医療・介護制度改革の視点と具体的な検討項目

平成28年10月4日 財政審 分科会 資料をもとに作成

視点

高齢化の進展を踏まえた
医療・介護提供体制の
確保

大きなリスクは共助
小さなリスクは自助

年齢ではなく負担能力
に応じた公平な負担

公定価格の適正化・包括
化等を通じた効率的な医
療・介護

今後の検討事項※

- かかりつけ医以外を受診した場合の定額負担の導入
- 介護療養病床等の効率的なサービス提供体制への転換
 - ◇ 地域医療構想に沿った医療提供体制の実現
 - ◇ 医療費適正化計画の策定・実現(外来医療費に係る地域差の是正等)
 - ◇ 医療費適正化計画の進捗状況等を踏まえた診療報酬の特例の活用のあるり方
 - ◇ 病床再編や地域差是正に向けた都道府県の体制・権限の整備

- 入院時の光熱水費相当額に係る負担の見直し
- スイッチOTC化された医療用医薬品に係る保険償還率のあり方
- 介護保険における利用者負担のあり方
- 介護の軽度者に対する生活援助サービス・福祉用具貸与等やその他の給付のあり方

- 高額療養費／高額介護サービス費の見直し
 - ◇ 後期高齢者の保険料軽減特例の見直し
- 金融資産等を考慮に入れた負担を求める仕組みの医療保険への適用拡大
 - ◇ 医療保険における後期高齢者の窓口負担のあり方
- 介護納付金の総報酬割導入
 - ◇ 現役被用者の報酬水準に応じた保険料負担の公平を図るためのその他の課

- ◇ 高額薬剤の薬価等のあり方(オプジーボ等)
 - ◇ 費用対効果評価の導入
 - ◇ 生活習慣病治療薬等の処方のあるり方
 - ◇ 先発医薬品価格のうち後発医薬品に係る保険給付額を超える部分の負担のあり方
 - ◇ 薬価改定のあり方(改定実績も踏まえ、その頻度を含め検討)

工程表の管理

医療・介護提供体制改革

負担能力に応じた公平な負担、給付の適正化

診療報酬、医薬品等に係る改革

※□は「改革工程表」に沿って平成28年末までに結論を得る必要がある事項